

事務事業名		統計協議会支援事業(運営支援)					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					担当組織	担当部	総合政策部	担当課	政策調整課
	政策	1 人権を尊重した市民参加によるまちづくり					担当係	統計係	担当課長名	大木 聡	
	施策	3 市政情報の共有と広聴活動の充実					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 広報活動の充実					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	3465	1	2	5	1	統計協議会支援事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S43 年度～ 年度		根拠法令等	佐野市統計協議会会則 佐野市統計協議会運営費補助金交付要領					
						事業区分		市単独事業・国県補助事業		国県補助事業	
								任意的事業・義務的事業		義務的事業	
								実施方法		直営	
								事業分類		広報・広聴・啓発事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長マニフェスト		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)																																													
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)																																										
佐野市統計協議会に補助金を交付し、同協議会の運営を支援している。 佐野市統計協議会は、市が行なう各種統計調査を円滑に実施するために、統計調査員としての資質の向上を目指すこと、市との協力体制を構築すること、併せて、会員相互の親睦を図ることを目的に設立されている団体である。			<p>(市の活動) 統計協議会の事務局として、補助金を交付手続き(交付申請、決定、実績報告等)を行っているほか、協議会の運営・活動をサポートしている。 (統計協議会の活動) 統計大会・研修会等への参加費助成、視察研修の実施、登録調査員交流事業の実施、研修会の実施、統計だよりの発行など。 平成26年度は、5月に定期総会を開催し、統計だよりを発行した。、10月に登録調査員との交流事業として足尾銅山を見学した。視察研修については、東京都で開催された全国統計大会に参加し</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動指標</th> <th>単位</th> <th>25年度(実績)</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(見込)</th> <th>28年度(見込)</th> <th>29年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統計協議会総会参加者</td> <td>人</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>視察研修の参加者</td> <td>人</td> <td>20</td> <td>12</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>研修会の参加者</td> <td>人</td> <td>44</td> <td>-</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>親睦レクリエーションの参加者</td> <td>人</td> <td>42</td> <td>38</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>								活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	統計協議会総会参加者	人	48	49	50	50	50	視察研修の参加者	人	20	12	25	25	25	研修会の参加者	人	44	-	50	50	50	親睦レクリエーションの参加者	人	42	38	40	40	40
活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)																																							
統計協議会総会参加者	人	48	49	50	50	50																																							
視察研修の参加者	人	20	12	25	25	25																																							
研修会の参加者	人	44	-	50	50	50																																							
親睦レクリエーションの参加者	人	42	38	40	40	40																																							
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)																																													
①統計協議会員 ②登録統計調査員			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)																																				
			統計協議会員	人	64	62	70	70	70																																				
			登録統計調査員	人	216	229	239	239	239																																				
目的																																													
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)																																													
統計調査員でもある会員に対して、研修会への参加費助成や情報交換の場を設けることにより、組織の拡充強化と会員相互の親睦を図り、もって統計調査員としての資質向上を目指す。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)																																				
			統計協議会会員／登録統計調査員	%	29.63	27.07	29.29	29.29	29.29																																				
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)																																													
行政が保有している統計情報を市民と共有する。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)																																				
			佐野市ホームページ「統計情報」閲覧件数	件	2,412	2,087	2,500	2,500	2,500																																				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	300	240	240	240	240	
	事業費計(A)	千円	300	240	240	240	240	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			補助金	330	補助金	240	補助金	240
	人件費	人	3	2	3	3	3	
のべ業務時間	時間	390	300	400	400	400		
人件費計(B)	千円	1,517	1,182	1,576	1,576	1,576		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,817	1,422	1,816	1,816	1,816		

事務事業名	佐野市統計資料発行事業	担当部	総合政策部	担当課	政策調整課	担当係	統計係
-------	-------------	-----	-------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和42年に登録調査員制度が開始になり、翌年の昭和43年に統計調査員の相互親睦を図るとともに、調査員としての資質の向上を図り、統計思想の普及並びに統計業務の円滑な推進を図ることを目的に協議会が組織された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	近年プライバシー意識の高揚や個人情報保護法の誤解により、統計調査をとりまく環境は年々悪化してきている。こうした背景もあり、統計調査員のなり手が減少しつつある中で、調査員の確保や資質の向上の観点からも協議会の存在は意義のあるものと言える。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	最近、協議会会員の高齢化が進んでおり、誰もが参加しやすい研修会や親睦レクリレーション等を実施してほしいという意見がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	登録調査員との親睦交流事業や研修会を開催し、協議会への勧誘を行った。 平成24年度より役員会の中に事業部会を設置し、役員による企画、立案を促した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	会員の統計調査員としての意識を高め、資質向上を図ることにより、各種統計調査に対する積極的な協力体制に繋がる。その結果、綿密かつ正確な調査が実施でき、充実した情報の提供・共有に結びつく。	
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	各種統計調査を円滑に行うためには、調査員の確保や協力体制が必要であり、今後ますます調査を取り巻く環境は困難になると思われるため、中核的組織として協議会の存在が必要である。また、協議会の活動も会員の会費のみでは事業の運営が困難であり、協議会を存続維持し、かつ各種行事等を実施するために、市の補助金が果たす役割は大きい。	
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	この事業は、統計調査員である会員の親睦を図りつつ、交流や情報交換を行うことにより、調査員としての資質の向上を目指す目的で実施しているため、対象と意図は合っている。	
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	当協議会は合併前より存続されている組織であり、協議会のなかった旧田沼・葛生の統計調査員には馴染みが薄く、会員が少ないのが現状である。会員の高齢化が進んでおり退会する会員が増えていくので、今後は新入会員を勧誘し、会員数を増やすことにより調査員の安定的確保につながる。	
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名		
	類似事務事業はない	理由・改善案		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	事業費が削減になった場合、事業の削減や会費の値上げなどの措置をとらざるを得なくなり、会員の減少につながる事が予想される。ただし、協議会の運営方法を見直すことにより、事務局としての職員の関与を少しずつ減らすことで、人件費を削減することができる。	
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	平成17年に見直しを行い、年会費(2千円)や参加者負担金など適正な負担を求めている。また、今後とも、財政状況を勘案しながら、会員に適切な負担を求めていくことも考えている。	
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		円滑な統計業務遂行のためには、当事業は必要である。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①協議会の事業内容等を充実させ魅力あるものとし、調査事務打合せ等の機会を捉え、会員の拡充に努める。 ②協議会ができるだけ自主運営できるように促す。(研修会の企画、統計だよりの発行などを会員が行うようにする)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	これまでは、市(事務局)任せの体質があり、自主運営は協議会にとっては負担となり、抵抗感があると思われる。 自主運営に移行した場合でも事務局のサポートが必要である。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			